コを写り	度 学校評価報告書			ママてフボフーしめまりおわない し思れ	JAVI E	1ノル' 高半1価 /	A: 十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある				光+ 未=π/エ へ ¢+ 田 =π/エ = □ □ = □	美安	·····································			
T		字 一直 計 画				検証方法(アンケート等)				学校評価の結果・評価・課題・改善案						
重点目標	運営方針	主分掌	具体的な取り組み事項	評価指標 (到達したい状況・状態)	目標値		- アンケートの内容 (指標の検証方法)	結果	昨年度(参考)	校内評価	反省及び次年度への課題等	学校 関係者 評価	改善案			
	総合学科高校としての 魅力化支援		・オーブンスクールの充実を図る。参加申込書を 邇摩高校が作成し中学校に配布することで、中学 生が参加しやすい申し込み方法に変更する。	2回のオープンスクールの延べ参加人数1 40人以上	100%			第2回 60	第1回 164 第2回 45 合計 209	А	・ほぼ例年どおりの参加者数を維持できた。2回目は開催日を変更したが 周知不足のため一部の中学校では見落とされたので次年度は改善する。ま た、31名が2回とも参加してくれたが、次年度はこの数字を伸ばした	Α	・実施要項はHPと公文書の両方で周知する。周知時にはオリジナルポスターまたはチラシを付ける。			
	地域と連携しに総合字	総務	・仁心祭「文化祭の部」でPTA事業を実施し、生徒・教職員・保護者の学校満足度を上げる。	E 教職員・生徒・保護者アンケートにおいて 「A」「B」と回答した割合	80%	0	文化祭のPTA事業は楽しめるものでしたか?	感染症拡大			・感染症拡大防止のため、2年続けて実施できなかった。来年度は実施可能な方法を検討したい。		・実施可能な活動の検討			
					80%	0	文化祭のPTA事業は楽しめるものでしたか?	防止のためまま								
			・ 卒業サウト 1月 - 炒りかち切れの出羽 - 毎時Ⅲ		80%	+ + + -	文化祭のPTA事業は楽しめるものでしたか?	7177.00			・八巻急記のケロけょのケ党ケネバをヘレス党ケネトの法様沿ルを口じさけ制を作ったこ		※◇挙むおなる##は※☆◇は を取り組むものでき八巻だけで切ったの			
			・産業社会と人間、総合的な探究の学習、課題研究が効率的かつ系統的に実施できる体制を整備する。	「A」「B」と回答した割合	80% 80% 80%	0	産業社会と人間、進路設計、銀の哲学、インターンシップ、邇摩高フェア、課題研究のつながりによって総合学科教育の魅力が向上し、教職員が共通理解を持って指導に取り組めたと思いますか。 総合学科ならではの学習活動(産業社会と人間、進路設計、銀の哲学、インターンシップ、邇摩高フェア、課題研究)が自分の主体性や社会活動への興味・関心、地域貢献度の向上に役立っていると思いますか。 総合学科ならではの学習活動(産業社会と人間、進路設計、銀の哲学、インターンシップ、邇摩高フェア、課	72.4% 88.2% 90.0%	92.6% 84.8%	Α	・分掌創設2年目は1,2年学年主任を介して学年会との連携強化を目指す体制を作ったことで、これまで表出しにくかった諸問題を分掌内で共有・協議できた。 ・「石見銀山保全活動プロジェクト」を始動でき、地域との繋がりの中での2年生の成長や1年生の継承する姿勢を感じる手ごたえを得た。次年度も継続させたい。 ・全教職員の共通理解に十分な時間を充てられなかった。次年度は共通の目標に向かう姿勢や力を合わせて解決を目指せる態度など、教員の基本的な資質を発揮して連携・協働力	A	・総合学科教育の推進は学校全体で取り組むもので本分掌だけで担うもの 一ではないが、体制作り半ばの現段階は分掌内で抱える業務が非常に多く なっている。分掌・学年会に今の状況を理解してもらうだけではなく、共 一有・分担するために、新教育課程やグランドデザインも含めて校内体制を 検討していく必要がある。			
 			・学校行事「邇摩高フェア」を全学年・全教職員	体 教職員・生徒・保護者アンケートにおいて	80%		題研究)はお子様の主体性や社会活動への興味・関心、地域貢献度の向上に役立っていると思いますか。 「ファイブスターカンパニー」が生徒主体で運営され、「邇摩高フェア」が学習の成果と地域とを繋げる取り	92.6%	97.1%		できるように積極的に情報の発信・共有をおこなう。 ・フェアが昨年度に続き感染症対策の中の開催となり、生徒・教職員が多くの困		・ 開催形態の変化に応じて、生徒主体の運営体制や1・2年生の動員方法な			
学			制で実施し、総合学科高校における地域課題解決型学習の成果を包括的に具現化させる。	80%		組みになっていたと思いますか。 「ファイブスターカンパニー」が生徒主体で運営され、「邇摩高フェア」が学習の成果と地域とを繋げる取り	92.0%	96.7%		難と向き合いながら得た今年の経験を、担当者として次年度に活かすことが使命と考える。		_ どを検討する。 ・フェア開催に向けた説明会および開催前の担当者会を設定する。				
·校 の	科教育の魅力化推進	1)				 	組みになっていたと思いますか。 お子様が「邇摩高フェア」に主体的に関わり、学習成果と地域とを繋ぐ取り組みに貢献できていたと思います			A	・駐車場不足やテイクアウト販売などコロナ前からあった課題にも、地域の協力を得ながら解決方法を探ることができた。 ・コロナ禍で、各企画が学習の成果に至るまでの計画や準備を十分に果たせな		-			
魅力化	島根県ならびに本校の 総合学科教育の研究と 実践	_	・教職員向け総合学科研修を通じて県内·全国の初点で本校の総合学科教育の改善と充実を図る。	現 教職員アンケートにおいて「A」「B」と 回答した割合	80%		か。 総合学科教育の特色と課題に対し、内容の検討や見直しができていると思いますか。	88.7%	88.0%	А	かったと思われる。 ・昨年に続き総合学科教育に係る会議・研究大会・発表会の中止が相次ぎ、県内外の情報を臨場感を持って伝えることができなかった。 ・総合学科教育に関する情報発信・情報共有の不足が教職員に総合学科教育に携わっている実感の不足をもたらしていると考えられ、共有の機会を増やす必要性を感じる。	A	・年度初めの総合学科研修だけでは十分な共通理解を図れない。探究学習に関するものや外部講師・オンラインを活用した研修・説明会を設定し、 教職員対象に実施する。			
	学校関係者、中学生、 地域に対する効果的な 情報発信	図書情報 研修	・分掌・学年会・系列などから情報を収集しHPに掲載して、効果的な情報発信に努める。 ・学校の魅力をHPを通じて発信し、学校のPRに努める。	情報掲載数:月平均15回以上	100%			掲載数 18.4回 アクセス数 3000回	掲載数 15.4回 アクセス数 3441回	А	・HP等で学校や部活動などの情報を提供したため、多くの方にアクセスしていただいた。また、前年度より掲載数が増えたため目標値のアクセス数3000回が達成したと考えられる。多くの先生方に掲載データの提供をしてもらったのが要因である。次年度も継続して、学校の魅力発信にHPを活用していきたい。	A	・来年度はHPリニューアルの年と業者の方から聞いており、更に魅力あるHPを作っていきたい。そして、今後も学校行事・分掌・系列・部活動などの活動成果をタイムリーに掲載するよう努める。			
	邇摩高校満足度の向上		・教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	0	学校生活に満足していますか。	77.7% () 内は上 から1年 (85.9%) (70.2%) (77.6%)	82.8% () 内は上か ら1年 (79.5%) (88.2%) (83.1%)		・コロナ渦において、活動が思うようにできなかったり、学校生活に不安 を感じたりなど、安心して学校生活を送ることのできなかった生徒が増え たと考えられる。	В	・安心、安全な学校生活が送れることが必要である。いじめやSNSなどの生徒間トラスルや、不登校傾向にならないようにするための対策や早期対応に一層強化していくと共に、個別面談等で、個々の抱える問題にいち早く気づき、寄り添う指導体制をより強化していく。 ・また、基礎学力の定着、基本的な生活習慣の徹底を強化し、夢の実現に向けて、充実した学校生活を送れるよう指導体制を充実させていく。			
	円滑な学校運営と施設 設備の充実	事務	・給付金等支援制度の申請や各種証明書の発行 伴う適確な対応、効率的な予算執行による施設 備の充実。	FIC 教職員・保護者アンケートにおいて「A」 設 「B」と回答した割合	90%	0	教員と連携した効率的な予算執行と感じていますか	92.9%	93.8%	А	・規定予算の効率的な予算配分と、コロナウイルス感染症対策予算による効果的な施設修繕が実現できたと考える。	А	・引き続き予算の効率的、効果的な執行に努める。			
				+ ******	90%	0	来校時や電話での対応が丁寧だと感じていますか	93.4%	91.8%		・給付金などの申請事務や証明書の発行事務については、適確な対応ができた。また、来客や電話の対応でも丁寧な対応を心がけた。	A	・引き続き本校の好感度アップのため、丁寧な対応に努める。			
	生徒の将来を見通したキャリア教育の充実	松合学科	・選択ガイダンスや見学・体験を通じ、生徒が主的に進路目標に応じた選択ができる体制を強化する。	す 「A」「B」と回答した割合	80%	0	系列・科目選択のためのガイダンス、系列別体験授業、授業見学、履修相談会等は、生徒の目標や興味・関心に応じた主体的な選択を実現させるための指導体制として効果的に機能していましたか。	89.7%	97.1%	Α	● 1年生の系列選択時期を11月に変更して2年目となるが、系列体験授業や授業見学は昨年より計画的に実施できた。 ● 1年生の系列選択指導を1年担任・教務部と連携を取りながら遂行したが、現行	A	・来年度入学生から4系列に再編するため、系列選択のための指導計画を 見直す。			
					80%	0	あなたは系列や選択科目を自分の目標や興味・関心に合わせて、自分の意志で主体的に選択することができたと思いますか。 お子様は系列や選択科目を自分の目標や興味・関心に応じて、主体的に選択することができたと思いますか。	88.9% 95.4%	98.1%	Α	・ 1 年主の条列選択指導を1 年担任・教務部と連携を取りながら遂行したが、現代 の問題点や課題を共有し検討していく必要がある。 ・ 1 1 ~ 2 月に計画してる卒業生追跡調査(試験実施)だが、準備・実施が遅れて	A	・卒業生追跡調査(試験実施)の結果を分析・検証し、将来の生き方や進 - 路を見据えた主体的な選択の実現を検証する。			
	図書館活用の充実と読 書活動の推進		・新聞学習・出前文庫・読書感想文などを通して 活字に親しむ生徒を育成する。	を利用することができた」に対して「A」	i i		授業やその他の活動、または図書・資料の検索、貸出等で、図書館を利用できましたか。	65.5%	73.5%	В	いる。 ・「あまりそう思わない」以下の評価が10名あり、昨年度より下がっ た。学校全体の業務が多忙化・複雑化したためも原因かも知れない。	В	・業務の精選化が進めば教材研究のゆとりが増え、図書館利用にまで発展 させられるかも知れない。新教育課程に対応した図書の購入を考えたい。			
		図書情報	蔵書構成を保って、読書意欲を喚起する。 ・図書館を利用した各種活動を実施して、図書委 員会の活動を充実させる。 ・教科指導や総合的な探究の学習の時間などにも 図書館を活用した授業数が	「B」と回答した割合	80%	0	本や雑誌・新聞を目にしたり、授業や調べ学習や試験勉強をしたり、放課後などの休み時間に図書館を利用したり、図書館を利用した活動や行事に参加したりしましたか。	61.5%	50.7%	С	・目標には届かなかったため校内評価をCとしたが、昨年度より11ポイント上昇しているので、この上り調子を維持したい。	С	・ 今年度は授業の利用数が伸び、休み時間に図書館に来る生徒も増えたが、新委員長を中心に図書館企画を計画し、目標を達成したい。			
		研修		も 図書館を活用した授業数が年間200時間 以上(1月まで160時間以上)	100%		でうて、各自品で行うしてに出動で行事に多加したうしなった。	152時間	116時間	В	・図書館の稼働率は上がっているが、一部の教科によるもの。	В	・ICT利用環境の宣伝や図書館資料の充実を図り、多くの教科で利用して			
				平均貸出数年3冊以上の生徒の割合(1月まで2.4冊以上)	100%			 3冊	3. 3冊	Α	・昨年に引き続き昼休みや放課後等で図書館を利用する生徒が増え、目標の貸出数を上回ることができた。	Α	<u>らえるよう働きかける。</u> ・図書委員による選書を行い、より興味関心の高い本を入れることで幅広 い生徒への貸出に繋げる。			
	校内外の体験的な学習活動への積極的参加の		・生徒主体で達成感がもてる生徒会活動を創造す 教		-	0	生徒が学校の教育活動に主体的に参加し、充実感や達成感を感じることができるように工夫できたと思いますか	85.7%	97.1%	Α	・コロナ禍においていろいろな制限があるなか、取り組んでいる学校の活	ξ A	・感染症対策を講じた学校教育活動はまだ続くと考えられる。これまでも			
					80%	0	あなたは部活動や生徒会主体の学校行事、委員会活動などに参加して充実感や達成感を感じることができましたか。	80.1%	86.1%	Δ	動に対しては、保護者の理解は得られている。しかし、生徒はなかなか終わらない感染症に対する閉塞感に不満を表に表す生徒が増えてつつあるように思う。 佐佐京ちこれでいいのかと兄兄葛藤しながら探れしていただい	Δ .	■できる限りの対策をとりながら行ってきているが、次年度もこれまで以上 に先生方、生徒と連携をとりながら全員が同じ方向を向いて、活動を展開 していくということに継続して限り組んでいきない。			
	促進					0	お子様は学校の教育活動に参加して充実感や達成感を感じていると思われますか。	88.6%	82.0%	Α	うに思う。先生方もこれでいいのかと日々葛藤しながら協力していただい ており、大変感謝している。	' A	していくということに継続して取り組んでいきたい。			
		生徒指導	受けて面談を行う。また、集会などを通して多様	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて 「A」「B」と回答した割合。		0	生徒が安心して学校生活を送ることができるように支援するための教職員間連携が図れましたか。	58.6%	85.7%	С	・前年度と同じ設問で比較したが、教職員の連携という点について、特に 生徒・保護者との数字に今年度は差が出たと思われる。生徒間のトラブル	С	・様々な会議が設定されていることや部活動の指導など新たな会を設定す ることは難しいと思われるので、例えば学年会などに各学年の生徒指導部			
	自他ともに尊重し、共 感できる人間関係の育		性の理解・啓発を行う。 ・日常の会話、観察を通して担任、学年会との連携を図り、生徒の変化の早期発見に努める。		80%	0	あなたは学校行事や学習活動などに対して安心して取り組めましたか。	88.0%	97.2%	Α	への対応や個々の生徒対応に対して全教職員で同じ目線で取り組めるようにする必要がある。しかし、生徒・保護者は個々の先生方のご努力によ	_	■ 員が協議内容に応じて加わらせていただいたり、生徒指導部の会に学年主 ■ 任の先生や関係の先生に加わっていただくなどの調整をさせていただきた			
生徒	1924,					0	お子様は学校行事や学習活動などに対して安心して取り組めたと思われますか。	88.1%	95.9%	Α	り、サポートを受けながら概ね安心して学校生活に取り組めたようである。	А	(1)。			
鬼カ	生徒の個性・資質を的 確に把握し、進路意識		・進路希望調査・生徒面談・各種検査を効果的に 利用する。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて 「A」「B」と回答した割合			進路集会や補習、面接・小論文指導などを通し、社会的・職業的自立に必要な知識や態度を育成するための指導支援ができていると思いますか。	82.8%	87.9%	Α	・外部講師を依頼していた進路ガイダンスは感染症対策のため中止となっ	Α	・進路情報の提供や進路意識の高揚、また保護者にも伝わるよう進路便り の発行やホームページの掲載等、発信方法を工夫する。			
化	の伸長と最適な進路実現をめざす指導の充実	進路指導	・社会人としての基本的なルールを身につけさせる。		80%		進路ガイダンスや進路デーなどの進路行事や、進路に関わる学びを通して、社会と自分の関わりや将来の自分の生き方、そして進路実現のために今しなければならないことなどについて、考えることができましたか。	88.5%	92.2%		たが、新しく進路weekや進路学習を企画し、実行することができた。これについては継続したいと考える。	A	」の元月でボーム・C クの掲載号、元日/J広と工人する。			
	<u>と推進</u> 進路情報の積極的な提 供と発信		・進路デーや進路ガイダンス、「進路閲覧室」の 利用促進、進路便りやホームページでの情報発信 を通じて幅広く的確な情報提供を行う。		0070		進路集会などの進路行事や進路に関わる学びは、お子様が、社会と自分の関わりや将来の自分の生き方、そして進路実現のために今しなければならないことなどを考えるうえで、役に立つものであったと思われますか。	81.0%	81.2%		・目標値に達し、一定の成果は得られた。しかし、進路便りの発行やホームページの掲載などを行い、保護者にもわかりやすく発信すべきだった。	А				
	相談活動の充実		・ケース会、カウンセリング委員会等を開催し情報の共有を図る。また外部機関との連携を図る。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と 回答した割合。	80%	0	ケース会、カウンセリング委員会等は、教育相談の機能を十分に果たしていますか。	88.0%	91.2%		・ケース会等の会議は定期的または必要に応じて実施でき、継続的な情報 共有の会議もできた。支援の必要な他の生徒に対して、学年部への更なる 声かけが必要であった。	A	・支援の必要な生徒に対して、積極的に声をかける。			
	健康管理の推進,学習環境の美化と施設保全	保健	の整理・補充)の実施	「B」と回答した割合			生徒保健委員会の活動は、全校生徒の感染症対策や環境美化に対する意識につながっていると思いますか。	86.2%	91.2%		放送やクラスでの呼びかけはできたが、全校集会や学年集会で更に呼びかける必要があった。	A	・全校集会や学年集会等で呼びかけを行う機会を増やす。			
					80%	0	生徒保健委員会の活動は、あなたの感染症対策や環境美化に対する意識につながっていると思いますか。	82.5%	91.7%	А		Α				
	特別支援教育の推進と 生徒理解	特別支援 教育	・教職員研修の企画・実施や便りの発行を行う。 ・特別支援教育推進委員会や学年会で校内の情報 を共有するとともに、外部機関とも連携を図る。	回答した割合	80%	0	あなたは研修会、たより等を通して特別支援教育に対する理解を深め、実践することができましたか。	93.1%		A	・本校は特別支援に対するもともとの理解があり、また今年度は学年会で連携して支援にあたっていただいた。校内研修が2回(1回は新任者のみ)であった。必要性は感じるものの、多忙の中で日にちを設定することに抵抗も感じる。	A	・よりニーズにあった講師を呼べるよう予算を確保する。また、必要な時に個人で調べることができるような書籍やコンテンツなどの情報を提供する。学年会・分掌が連携していろいろな目で支援ができるような体制作りを行う。			
			をおこなう。 ・教職員に対する情報発信や研修の企画・実施を	のの発行 教職員・生徒・保護者のアンケートにおい て「A」「B」と回答した割合 実施を	80%	0	人権教育に関するHR活動や便り、教職員に対する情報提供・研修等は、生徒の人権感覚を磨き、人権意識を 高めるうえで効果的でしたか。	93.1%	100.0%		・HR活動は、学年部主体で生徒の実態に合わせた企画・実施の流れを作ることができたが、さらに深化させる必要性を感じる。 ・生徒の人権問題に関わる事案があった場合に、速やかに情報共有を行う	A	・人権教育推進委員会を学期に1回程度ひらき、生徒の人権問題に関わる 事案について情報共有・交換を行うほか、推進状況の見直しを行ったり、 教職員研修の内容等の検討を行ったりするなどし、教職員全体で連携でき			
	人権教育の充実と多様 性を認め合う心の教育 の実践	人権教育	おこなう。		80%	0	あなたは、人権に関するHR活動や日々の学習活動を通して、自他の人権を大切にし、多様なあり方や生き方を尊重し、人権意識を高めていくことができましたか。	86.0%	96.6%	А	ことができたものとそうでなかったものとがあった。スタッフ間でもさらなる連携をはかる。	А	る体制づくりを進める。			
					80%	0	学校は、人権に関するHR活動を中心とした教育活動の全体を通して、生徒の人権感覚を磨き、人権意識を高めるよう努めていますか。	82.1%	75.1%	А	・教職員研修については、計画的な実施および実施方法の検討をする。 ・便りは12月までに第10号まで発行している。生徒の3年間を見通した 内容の精選、計画的発行を行う。	А				

			・授業実践力の向上	教職員アンケートにおいて「A」「B」と			ı			┃・ICT活用の整備、および教員のICT活用スキルの向上が必要。	Ī	・教員間の情報交換を促し、ICT活用をより普及させていく。	
学習	生徒の成長を促す授業 実践の環境整備			回答した割合。	80% O	あなたは、生徒の実態に応じて授業の内容や方法等を工夫していますか?	92.9%	61.8%	A	各教科、系列で生徒の実態に合わせたきめ細かい指導が実践できている。	Α	・教員向けのICT研修会を実施する。	
指導	生徒の成長を促す授業	教務	・全体環境の整備(効果的なUD環境の定着を推進する)	∮ 教職員・生徒アンケートにおいて「A」 「B」と回答した割合。	80% O	あなたはUDに係わる邇摩高校のルールを認識し、それに基づいてわかりやすい授業を展開することに努めましたか?	93.1%	87.9%	А	・「本時のねらい・流れ」の提示をさらに徹底していかなければならな 」い。	А	・新カリキュラムの実施へ向けての授業改善、指導と評価の一体化の実 」践。	
の 充	実践の環境整備				80%	O あなたが受ける授業は、目標や流れが提示され、チョークの色や板書の仕方が統一されるなど、誰もがわかり やすい授業が展開されていると感じましたか?	89.4%	94.3%	Α	・遅進者への対応や生徒の実態に合わせた個別指導が展開できている。	Α	(シラバス作成、指導計画の作成等)	
実	情報機器を中心とした 授業実践の環境を整備	研修	授業等でのPC教室やICT機器の活用を支援する。	教職員のアンケートにおいて「A」「B」 と回答した割合	80% 0	PC教室またはICT機器を授業等の教育活動に利用することができましたか。	65.5%	80.0%	В	・あまり利用されていない、と回答された先生方が10人だった。Google を利用した指導まで手が回らなかったことが考えられる。	В	・2月から一人1台のPCが配布され、校内研修も行われることを通して Googleの利用に馴染んでもらえるといいと考える。	
	自己実現に向けて主体		ション能力を高める。 ・挨拶の励行と身なり指導の徹底を図る。	- 教職員・生徒・保護者アンケートにおいて 「A」「B」と回答した割合。	80% 0	生徒が社会生活のルールやマナー、学校のきまりを意識して生活を送れるよう声がけができましたか。	93.1%	94.3%	Α	• 先生方は、個々に生徒に声がけをしていただいており大変感謝している。生徒の規範意識が少し下がっていること、先生方が生徒の様子を見ら	Α	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見 直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。	
	コロス坑に同りて土体 的に取り組む制度の醸 成	生徒指導			80%	O あなたは社会生活のルールやマナー、学校のきまりを意識して生活を送っていますか。	93.2%	97.6%	А	て、社会に通用する力を身に付けているのかについて危機感を持っておれることを頭に置いて学校生活のルールについて伝えていく必要があしている。	Α	すべての先生方に系列、学年、クラスの別なくすべての生徒を見ていただ けるように、例えば身なり点検での担当者の入れ替えなどの工夫をしてい	
					80%	○ お子様は社会生活のルールやマナー、学校のきまりを意識して生活を送っていると思われますか。	85.6%	90.6%	Α	ි	Α	きたい。	
	生活環境の整備	舎務	・共用場所の環境美化に取り組む ・風呂場の改修工事への協力する	教職員アンケートにおいて「A」「B」と 回答した割合	80% O	共用場所の環境美化(トイレ、浴室・脱衣場)に取り組んでいましたか。 風呂場の改修工事への協力を舎務部が生徒とともに取り組んでいたと思いますか。	95.8%		A	・寮生の生活時間に清掃活動を新たに取り入れたことにより美化意識が高まりました。・寮生及び宿直舎監の先生方に不便をおかけしましたが、ご理解ご協力をいただくことができ無事終了することができました。	А	・掃除について、共用スペースをきれいにすることは定着してきましたが、各部屋の個人のスペースが不十分なので、改めていきたいと思います。・次年度は寮全体の大規模の改修工事が予定されているので、またご不便をおかけすることになります。引き続きご理解とご協力をお願いいたしま	
生徒			・進路に関する意識をもたせ、適切な進路選択を 行えるように支援する。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて 「A」「B」と回答した割合	0	「産業社会と人間」の授業や個人面談は、生徒に進路意識を持たせ、進路希望や目標に適した系列選択をする ための有効な手立てとなりましたか。	91.7%	89.7%	А	・担任の先生を中心に、関係分掌や系列と連携しながら実施できた。系列選択について、ミスマッチがないように系列の先生方のアドバイスをいただき、必要に応じて面談を重ねることができた。保護者との面談は冬休みを待たずに予備登録時にできるとよいという意見もあり、検討が必要であった。 ・今の学校生活が進路実現につながることを意識させ、学習や日常生活が充実するよう支援していきたい。	Α	・系列選択に関する保護者面談時期を検討する。・学習や学校生活の充実に向けて、学年集会等を計画的に行う。	
指導		1年			80%	O 「産業社会と人間」の授業や担任の先生との面談は、あなたが卒業後の進路について考え、自分に適した系列 を選択するための助けとなりましたか。	93.7%	95.6%	А		Α		
の充						○ 学校は、お子様が希望の進路や目標にあった系列選択をするために十分な支援をしていますか。	91.2%	88.2%	А		Α		
美		{	・進路設計の授業やPBLインターンシップ等で毎時のねらいを確認させ、「問題発見・解決能力」の育成を図り、進路意識を深めさせる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて 「A」「B」と回答した割合	0	全体・個別指導などの学年会における取り組みは、生徒の実態を考慮し、進路実現に向けてふさわしいもので したか。	76.2%	95.7%	В	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。		・「進路設計」を「総合的な探究学習」だけでなく、進路学習を	
	学年会による指導の充 実	2年			80%	O 学年集会や個別面談は、あなたのやる気を高めたり、進路実現につながるような成長のきっかけをあたえてくれるものとなりましたか。	87.1%	95.8%	А			定期的に入れる。「反省及び次年度への課題」で書いたように、	
						○ 学年通信・学級通信の配布や保護者面談は情報提供の場となり、お子様の進路選択につながる有意義なものでしたか。	82.4%	84.1%	А			学年会だけでなく、他教員にも随時、報告し情報を共有する。	
		1	・進路実現のために、日々の学校生活において凡 事徹底を図らせる ・職業観・勤労観を確立させる	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて 「A」「B」と回答した割合	0	全体・個別指導などの学年会における取り組みは、生徒の実態を考慮し、進路実現に向けてふさわしいもので したか。	90.5%	100.0%	А	・昨年度の数値と比べ、かなり低い評価となった。教職員に対しては、字 年会での取り組みが見えるようにメールの活用、各種会議での報告につと	Α	A 教職員・・・メールの活用、報告の工夫(見える化) A 生徒 ・・・面談時以外でのコミュニケーションの場を積極的に増やす	
		3年			80%	O 学年集会や個別面談は、あなたのやる気を高めたり、進路実現につながるような成長のきっかけをあたえてくれるものとなりましたか。	82.6%	96.9%	А	めたい。生徒に対しては普段からの声かけを意識し、保護者に対しては、 具体的な進路状況の情報提供がやや足りなかったと考えるので、情報発信	Α		
						O 学年通信・学級通信の配布や保護者同伴説明会・保護者面談は情報提供の場となり、お子様の進路実現につながる有意義なものでしたか。	70.0%	95.4%	В	の方法に関して最も有効な手段を考え、関係各署と今以上の連携をしていきたい。	В	- 保護者・・・三者面談の前にも保護者と情報交換できる場の設定	
				新規高卒者の就職率	100%		100.0%	100.0%		・今後も本人の進路実現を支援していきたい。		T	
	実績 • 資格	A指標		就職者のうちの県内就職者の割合	80%		92.3%	91.1%	$\frac{1}{A}$	・地域と連携したキャリア教育を実践していきたい。	A	→ 学年部、系列、分掌との連携・情報共有をさらに深める・ 全教員で生徒の進路実現を支援する	
グ		7 (32)2(系列の学びを活かした進学・就職者の割合	30%		47.2%	31.170	A	・各系列、学年部、進路指導部のご指導により目標を達成できた。			
フトント			主体性	生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合 		O まじめに学習に取組むことができましたか。	84.4%		A	・日頃の授業、学校行事、学校生活での指導・工夫や声がけが評価されたと考え られる。今後さらに進めていきたい。	A	・ I C T の活用等による授業の工夫や、評価方法の研究を進め、魅力ある授業を実現する ・新教育課程が円滑に展開できるよう準備を進める ・活動や発表の場を設定することによって、主体的に学校生活に取り組めるよう	
ドデ					70%	○ 分からないことを人に聞いたり、自分の意見を発言できましたか。	79.6%		A				
品 価 指 イ			協働性		70%	○ 人の話をよく聞き、話し合うことができましたか。	91.6%		A				
指イー標ン					70%	O クラスや部活動などでの自分の役割を果たすことができましたか。	85.6%		A		Α	- 券める	
がに	姿勢・意欲	B指標		7	70%	Q 疑問に思ったことを自分で調べることができましたか。	74.7%		A		Α		
関し			探究性		70%	○ 自分の意見をまとめて発表できましたか。	72.2%		A		A		
る			社会性		70%	学校の決まりやルールを守って生活できましたか。	91.1%		A		Α		
		;			70%	O 地域の行事やボランティア活動に参加しましたか。	55.7%		С	・コロナ渦で地域での活動が少ない中で、関心を持ち参加する生徒も多くいるので、積極的に勧めていきたい。	С		
	高校の魅力化につなが る教育活動やそれに関 つる大人(地域)の増	ı		魅力化アンケートの学習環境の4領域の結果が4領域とも3以上	100%		主体性4 協調性4 探究性4 社会性4	主体性3 協調性3 探究性3 社会性3	А	・感染症対応のため十分な活動ができない中での高い評価となった。今後もコロナ渦に対応した活動について模索を続けていく必要がある。	А	・地域と連携した活動ができるようコーディネーターおよびコンソーシアムを活用して協力者を増やし、活動の場を広げる	
成果 指標 指費	地域を支える人材の増加			県内への進学・就職率	80%		就職92.3% 進学52.2% 合計64.2%	就職91.1% 進学45.7% 合計71.3%	В	・本年度は就職希望者が少なく、全体として県内率が下がった。コロナ渦での地域との関わりの維持を考えていく必要がある。	В	・道の駅を利用した地域連携事業をさらに検討する・地域と関わる場面を増やすことで、地域の魅力を感じ、地域に貢献したいと思う生徒を増やす。	
:	校志願者数の増加			本校志願者数が昨年度を上回る	100%		87人	89人	В	昨年度より志願者が減少した。コロナ渦で、本校の教育内容や活動の様子を理解 していただく時間が十分取れなかったことが原因と考えられる。	В	・中高連携事業の強化・高校魅力化事業のPR強化	